

令和5年度 第3回吹田市企画会議概要

日 時：令和5年7月7日（金）午前11時5分～午前11時45分

場 所：吹田市役所 高層棟4階 特別会議室

出席者：後藤市長、春藤副市長、辰谷副市長、小西総務部長、今峰行政経営部長、梅森健康医療部長

所 管：【都市魅力部（シティプロモーション推進室）】

井田部長、脇寺室長、田中参事、山下主幹

案 件	2025大阪・関西万博を契機とした国際交流による本市の魅力発信について
担当及び関連部局	都市魅力部（シティプロモーション推進室）
【案件概要】 本市の強みを生かしたまちの魅力を国内外へ更に発信するため、2025大阪・関西万博を契機とした、内閣官房実施の万博国際交流プログラムのモデル事業に、スイス連邦を相手国として応募し、国際交流事業を実施する方向性を確認するもの。	
【所管部の考え方】 2025大阪・関西万博（以下「万博」という。）を契機とした取組の柱の一つとして、内閣官房において、全国各地域における万博参加国との継続的な国際交流を促進すべく「万博国際交流プログラム」が令和6年度（2024年度）から全国展開される予定である。現在、当該プログラムの枠組みを検討するためのモデル事業を実施する地方自治体の公募がされている。 他の自治体に先んじて参画し、本市の強みを生かしたまちの魅力を国内外により効果的に発信するため、本モデル事業へ応募し、令和5年度（2023年度）から継続的に当該プログラムに参画しようとするもの。	
【質疑概要】 質問： 本モデル事業の実施主体は地方自治体であり、国がそれに対して支援するものだと考えている。今年度は、本モデル事業に選定されたら、国から最大400万円の補助を受けることができ、今後、具体の事業内容は補正予算の査定等で精査するということだろうが、令和6年度（2024年度）・令和7年度（2025年度）の国の費用負担や支援の見込みはどうか。 回答： 今年度についてはそのとおりである。次年度以降は、東京2020オリンピック・パラリンピックの際の類似事業は特別交付税措置だったので、おそらく今回も同様となると見込んではあるが、国費措置等の支援については未定である。 質問： 本モデル事業に本市が選定され、吹田市という地方自治体とスイスという国とで万博を契機に交流を行い、関係ができた後の万博後のプランがあれば教え	

てほしい。

回答： 本市とスイスの交流の後、スイスのどこかの都市と既存の姉妹都市のような関係を持つことは考えていない。国立循環器病研究センターなどの北大阪健康医療都市を中心とした交流が中心となるため、まずはこの3カ年で仕組みを構築し、民間事業者とスイスの企業等との交流が万博後も続いていくことを想定している。

質問： スイス側へはどこまで話が進んでいるのか。

回答： 在大阪スイス領事館の本件の担当者や在大阪スイス領事と話をしており、スイス大使館にも本件につき、報告してもらっていると聞いている。

意見： 万博を盛り上げ、民間交流につなげていくという説明だったが、未定の部分もあり、詳細が判明すれば改めて内容精査が必要である。今後、内容が具体化する中で、なぜスイスなのか、なぜ本市がこのような交流をするのかといった質問に対する説明を都度整理しておく必要がある。

DXの時代における国際交流の意味を整理し、10年後20年後、その先まで見据えた、お互いの強みや無いところを学び合う交流とする一方で、今までの教訓を生かし、ある程度期間を区切り必要性を検討できる体制としてほしい。

指示： 3カ年でのプログラムに応募するという方向性で進めるものとし、万博開催期間以降も見据えながら進めていくこと。

【結果】

本件の方向性については、承認された。会議で出た意見、指示を踏まえて取組を進めること。